安全衛生報誌

安衛委　Ｎｏ１１３
平成２３年４月２７日
安全衛生推進委員会

平成二十三年度 安全大会

今年の安全大会は、四月二十二日大越公民館で、三月十一日の東日本大震災で犠牲になられた方々に対して黙祷を行ってから開催されました。

社長より、東日本大震災で死者及び行方不明者が県内で４千人を超えてしまったことや、県内の公共施設の被害額が、三千百三十億円という過去に類を見ない被害となってしまいました。

震災によって応急復旧作業を手がけている方や、今後余震などで公共民間を問わず応急復旧の優先的に実施するよう要請があると思いますので、災害の状況に応じた建設物の解体・改修工事を行う際に余震による二次災害防止を図って作業していただくようにして頂きたい。本県の復興にはわれわれ建設人が、未来に希望を持ち、新たなふるさとづくりに邁進するため社員が心を一つにして踏み出して行かなければならないと挨拶がありました。

勤続表彰では、橋本春次さん二十年、遠藤紀夫さん十年、松崎浩徳さん十年の永年勤続表彰を受賞いたしました。安全標語表彰では、最優秀賞に村上易則さんの「言葉に出そう　皆でやろう　危険予知」優秀賞に近内隆政さんの「変える意識　変えない基本　みんなで取り組む安全作業」佳作に箭内金蔵さんの「くりかえし　くりかえす　安全作業に　事故はなし」の三点が表彰されました。無事故無違反表彰では、石井徹さん、二瓶国一さんの二名が十年無事故無違反で表彰されました。表彰された皆様本当におめでとうございます続きまして、建築部長の国分雄浩さんが現場体験談として、建築工事を施工するに当たり、皆さんが公共工事の土木工事を施工する際に安全経費は積算されているが、民間の建築などでは仮設経費が膨らむとお客に迷惑がかかるため、金をかけられないのが現状です。安全については、会社の規模や、身の丈に合った経費のかけかたをしていかなければならないし、基本的には、自分で自分を守ることを指導している。今までの建設業はインフラストラクチャの整備をしてきたが、今後は震災の復興にむけて頑張っていかなければいけないと話をしてくれました。

講演では、山﨑建設（株）安全部長の東　克美様に「データと安全管理について」講演を頂きました人間はいつまでも覚えていないので、繰り返し、繰り返し、しつこく指導しないといけないことや、仕事の量に対して建設業者が多いこと、重層下請構造による異なる企業の作業員や、臨時作業員が多いために、安全衛生教育や事業主送り出し教育がなされていないために労働災害の発生原因とされている。災害発生状況を見ると、五十人以下の建設業に携わった方々が死傷病報告の九十五％を超えている。私病死でも心筋梗塞、脳梗塞の方が多いため、新規入場時には必ず血圧を確認しておくように、（特に五十歳以上の高齢者）

いい仕事とは、安全に楽しく正確に早く安く行うこと建設業で怪我をする確率は五十分の一で起きています